

第 37 回日本呼吸療法医学会 第 2 回理事会 議事録

日 時：2015 年 2 月 19 日（木）13：00～16：15

場 所：東京八重洲ホール 8 階 813 会議室

出席者：川前金幸（理事長）、竹田晋浩（副理事長）、大塚将秀、尾崎孝平、落合亮一、小谷 透、
藤野裕士、橋本 悟、西田 修、布宮 伸、多治見公高（各理事）、氏家良人、妙中信之（各監事）

[敬称略]

陪 席：山崎由華、小笠原聡（事務局）

【報告事項】

1. 前回理事会議事録（案）の確認

確認の上、承認された。

2. 会員動向の報告

大塚事務局担当理事より報告があった。

会員総数は 2015 年 2 月 1 日現在 2216 人で、昨年 10 月に比較して、総数、医師比率、男女比などに大きな変化はなかった。2015 年 3 月末で、退会希望 9 名、会費滞納による退会対象者が 116 名あり、若干減少する可能性がある。

賛助会員が 1 社（パシフィックメディコ）減少して 11 社になった。賛助会員数増加に向けて、関連各社に依頼状を送ることとした。

3. 第 37 回日本呼吸療法医学会学術集会準備状況

橋本会長より、7 月 17、18 日に京都国際会議場で開催予定であることが報告された。

一般演題の申し込みは締め切り、267 題のエントリーがあった。

APELSO が同時開催される（7 月 17～19 日）ことが報告された。

3 学会合同呼吸療法認定士の更新点数が取得できるセミナーは 19 日に開催予定。

4. 第 38 回日本呼吸療法医学会学術集会準備状況

西田副会長より、2016 年 7 月 16 日、17 日に名古屋国際会議場で開催予定であることが報告された。

5. 各委員会報告

①将来計画委員会

川前委員長より報告があった。

第 3 回医師向けセミナーは 2015 年 11 月 28 日（土）に東京医科歯科大学講堂にて、募集定員 180 人で開催に向け準備中。

②人工呼吸編集委員会

藤野担当理事より報告があった。

31 巻 2 号を 2014 年 11 月 30 日に発行した。

32 巻 1 号は 2015 年 5 月下旬に発行予定。

優秀論文賞と奨励論文賞は、委員会から推薦の通り承認された。

・優秀論文賞：聖マリアンナ医科大学 渡邊陽介先生（理学療法士）

- ・奨励論文賞：市立札幌病院救命救急センター 高氏修平先生（医師）

松山市民病院リハビリテーション科 萩森康孝先生（理学療法士）

なお、受賞者の職種に偏りがあるとの指摘があったが、投稿者の偏りを反映しているもので、選考に問題はないことが確認された。

用語集に追加を検討する 11 語中 10 語については、一部修正することで承認された。

「NAVA」の日本語訳については、委員会に差し戻し再検討を依頼することとした。

案として、「NAVA」、「神経調節換気補助」、「記載しない」などが提案された。

投稿規定に論文種別の目安を記載することについては、投稿者および査読者の判断の助けとなるため、提案通り追記することが承認された。

③代議員審査委員会

隔年の審査のため、本年度は活動がなかったことが西田担当理事から報告された。

④在宅人工呼吸療法検討委員会

尾崎担当理事より報告された。

現在の委員会は、6 年前から進行中のマニュアル作成のための WG に移行する。

作成するマニュアルは事故対応を中心とする。

WG は人工呼吸安全対策委員会の ad hoc とする案を検討する。

新たに小児在宅人工呼吸療法委員会を発足させる。

小児に特化して社会的な問題や親の教育まで視野にいた対応を考える委員会とする。

委員長として埼玉医大の田村先生が推薦され、担当理事から依頼することが決定した。

⑤自発呼吸アセスメントプロトコル（仮称）作成 WG

尾崎担当理事より報告された。

自発呼吸アセスメントプロトコル（仮称）作成 WG のメンバーは次の通り承認された。

尾崎孝平（神戸百年記念病院麻酔集中治療部）委員長

黒澤 一（東北大学大学院医学系研究科・医学部 産業医学分野）

真淵 敏（兵庫医科大学病院リハビリテーション部）

間瀬教史（甲南女子大学リハビリテーション学部）

関口浩至（琉球大学大学院医学研究科救急医学講座）

今後、プロトコル骨子の作成、必要な情報収集、必要な研究の立ち上げ等を行う。

⑥セミナー委員会

大塚担当理事より報告された。

300 人規模の座学のセミナー 2 回と 30 人規模の実技セミナー 1 回が開催された。

阿部委員が任期満了で退任し、委員会より推薦のあった静岡県立こども病院小児集中治療センターの川崎達也先生が後任として承認された。

⑦チーム医療推進委員会

布宮担当理事より報告された。

RST 活動支援のためのプロジェクトチーム、非医師の会員投稿支援システムが稼働中。

⑧人工呼吸管理安全対策委員会

大塚委員長より報告された。

NPPV 安全使用のための指針および人工呼吸器の突然の動作停止事例 2013 年が人工呼吸誌に掲載され、学会ホームページにアップされた。

動作停止事例の収集は、実態把握のためにも継続的に行っていくことが確認された。

任期満了に伴って多賀委員と大塚委員長が退任し、推薦のあった佐藤大三先生と竹内宗之先生が後任として、

また次期委員長として齋藤浩二先生が承認された。

⑨専門医委員会

藤野担当理事より報告された。

記述式となる第1回目の試験が2014年に行われた。

試験問題の内容は人工呼吸誌に公表していくことが確認された。

⑩危機管理委員会

小谷委員長より報告された。

委員会を継続して存続させることは学会として望ましいことが確認された。

今後は、新興呼吸器感染症の発生状況を監視し、必要な情報をHPにアップすることが確認された。

⑪ECMO プロジェクト委員会

竹田委員長より報告された。

シミュレーションラボを2014年8月9日に行った。本年も継続して実施予定。

症例登録システムを、東邦大学内に設置したサーバーを用いて構築予定。

PCPS研究会と共同で研究会を行っていく。名称はPCPS-ECMO研究会となる予定。

⑫利益相反委員会

西田担当理事より報告された。

委員会委員等のCOI提出数は、99名中47名だった。

今後はCOI開示の確認を行っていく必要性について指摘があり、倫理委員会と協力して検討することとなった。

⑬学術委員会

橋本委員長より報告された。

今後のあり方について、委員数は限定し、各分野の代表は協力員とすることになった。

委員主導でシンポジウムなどのプログラムを作成し、また必要ならば任期1年ではなく延長も考慮することが確認された。

⑭社会保険委員会

落合担当理事より報告された。

新規作成された内規が承認された。

委員数は3名程度に限定し、各分野・職種から選抜された委員は協力員の形とすることが確認された。

外保連へは、2年間の委員会実績を積んだ上で加入を検討することとなった。

⑮財務委員会

落合委員長より報告された。

学術大会の会計と本体の会計を統合すべきかどうかについては、本年の収支状況をみて検討することが確認された。

⑯倫理委員会

小谷担当理事より報告された。

⑰高頻度振動換気法使用指針作成のためのワーキンググループ

竹田担当理事より報告があった。

審議事項参照。

⑱ARDS クリニカルプラクティスガイドライン作成委員会

橋本委員長より報告された。

日本集中治療医学会および日本呼吸器学会と共同で作成する方向で検討中。

3学会でCOIの開示基準が若干異なるので、調整の必要がある。

患者などを含む多くの参加者によるパネル会議開催が求められている。

①⑨医工連携ワーキンググループ

西田担当理事より報告された。

6. その他

* 持ち回り理事会決定事項

承認したことが確認された。

* 日本呼吸管理学会との連携について

川前理事長より報告があり、シンポジウムなどを適宜共同開催していくことが確認された。

* 次回理事会について

2015 年 4 月 28 日（火）13 時よりメディカ出版本社会議室（新大阪）

【審議事項】

1. 次々期（第 40 回）学術集会会長候補者の推薦について

竹田晋浩先生（日本医科大学）が推薦され、承認された。

2. 各委員会からの審議事項

* HFOV-WG：HFOV プロトコル最終版承認

竹田担当理事より HFOV 使用指針が提示された。

委員間で統一が図れず、パブリックコメントでも指摘があった部分については、検討内容を明記するとともに、両者併記の形とすることも視野に入れて再検討することとして委員会に差し戻した。

一企業が開発した特定の機種を意識したプロトコルであり、その製品の臨床研究のためのプロトコルであることを明記すべきであるとの意見があった。

エビデンスがない中の作成なので、その意図が十分伝わるように、また経験の浅い医師が安易に HFOV を施行することがないように序文を修正することが確認された。

* 在宅人工呼吸療法検討委員会の件（尾崎担当理事）

今後は成人と小児に分けて 2 本立てで検討することが提案され、承認された。

小児のガイドラインは田村先生を中心に作成していくことが承認された。

安全対策などの業務は、人工呼吸管理安全対策委員会に 1 本化することが承認された。

3. 事務局受託費の件

川前理事長より報告があった。

現委託先であるメディカ出版は、円滑な学会業務遂行上不可欠な存在であり、また会員から何の苦情や質問も来ていないことが確認され、当学会にとって継続して委託するメリットが大きいことが確認された。

2009 年 7 月の時点と比べて 2015 年 1 月は会員数・委員会数・支出額などが大きく増加しており、業務量の増加に見合う事務局費を支払う必要性が確認された。

4. その他

ECMO プロジェクト竹田委員長より報告・提案があった。

小児用の ECMO 用カテーテル（国内では 2 社の製品のみが使用承認されている）について、1 社は使用上の注意が改定（アクセスは大腿動静脈に限定、原則 6 時間以内）、もう 1 社は海外での事故調査が終了するまで一時供給停止となった。今後は、臨床倫理委員会の承認下で各施設が医師の裁量権で使用予定。

そのための申請書の雛形（作成した施設のものを追認）を倫理委員会が中心となってバックアップする。今後も同様な事態が生じる可能性があるため、限定された企業からのみ供給されている医療材料や医療機器については、海外製品の早期輸入促進に向けて学会としてバックアップすることが確認された。

以上にて閉会となった。